自由度の高いプログラムで個々の希望に応える研修を

中国労災病院

JR広島駅から快速列車で40分、新広駅からすぐの場所にある「中国労災病院」。呉市の東側の医療圏を支える中核病院として、1次から3次まで幅広い疾患を受け入れる救急体制に強みがあります。年間約15,000人の救急患者に対応しています。

体験しながら学ぶ実践型の研修

中川…当院の大きな特徴は救急診療に力を入れていること。研修医の二人も、半年間でさまざまな経験を積めているんじゃないかな。

三村…私がこの病院での研修を希望したのも、救急対応がしっかりできるようになりたいと思ったからです。救急科の当直ではファーストタッチは研修医がするなど、自分の体を動かしながら学べる環境なのが、私には合っていました。

濱田…僕の場合は、学生のときに見学に来て、実際に働いている研修医を見たことが決め手になりました。上級医の指導を受けながら、どんどん診療をされている姿がすごくいいなと思って。

中川…指導医がしっかりフォローしているから、研修医が積極的に治療できるんだよね。

濱田…その安心感はあります。僕は広島県医師育成奨学金を利用しているので、学生の頃から「広島の地域医療に貢献したい」と思っていたんです。ここでの研修を通してそれが実践できていると感じます。

中川…当院がカバーする呉市は、人口15万人以上の都市で最も高齢化率が高い地域。だから高齢者の救急搬送も多いよね。軽症の患者さんから意識がないような重症例まで、あらゆる症例に対応できるようになると思うよ。

三村…医師になったからには、目の前で人が倒れているときに何もできないことがないようにしたい。いざというときに動ける医師になりたいです。だからこの先、自分の専門分野を決めるにしても、最低限の救急スキルは身につけておきたいと思っています。

中川…当院が積極的に救急搬送を受け入れられるのは、各診療科のバックアップがあるからこそ。多発外傷などでは、各診療科の医師たちが集合して非常に良いチームワークを発揮します。

藤原…院内の連携がいいのはうちの強みですよね。医師同士もそうですし、コメディカルや事務スタッフとも協力し合える関係。「患者さんのために何をすべきか」を、みんな考えながらやってくれています。

中川…そうしたコミュニケーションの良さは、地域の他の病院やクリニックの先生方、介護施設のスタッフさんたちとも。連携の輪が院外にも広がっていますね。

救急医療の基本が2年間のうちに確実に習得できる

自由なプログラムでやる気をサポート

藤原…今年の4月から初期研修管理委員会の委員長として、研修プログラムの作成に関わっていますが、まず目標にしたのが研修内容を充実させること。研修医たちの意見を聞きながら、自由度の高いプログラムを実践しています。

濱田…僕たち研修医がやりづらいところがあれば、すぐに改善してもらえるのでありがたいです。委員会には1年目、2年目の研修医の代表が参加していて、そこで要望を伝えることができます。

藤原…新たに変えたのは、ローテーションする診療科と時期を、個々の希望に応じてフレキシブルに選択できるようにしたところ。これまでは2年目になってからしか回れない診療科があったのを、自由に選べるようにしました。1年目のうちから、将来を見据えて専門科を学びたいと希望する研修医も多いからね。

濱田…研修の進み具合をきめ細かく見てもらえるのも嬉しいです。

藤原…委員会のメンバーの一人が研修医の担当になり、希望を聞いたり、カリキュラムの進捗状況を確認したりしているよね。研修医の数が多くても、一人ひとりに目が行き届くようにしているんだ。

三村…当直に入る回数を研修医が自分で調整できるのも、ここならではですよね。症例をたくさん診たいと思えば当直を多く入れて、数をこなすことも可能です。

藤原…それぞれの意思を大事にしたいと思っているからね。スキルを身につけて専門医になりたい、留学をしたい、論文を書きたい……、10年後にどんな医師を目指すかによって研修期間の過ごし方は変わってくるはず。

濱田…やる気があれば、それを応援してもらえる環境ですよね。研修医2年目の先輩とペアを組むメンター制をとっているので、何かあればいつでも気軽に相談できます。

三村…そうそう。「次に回る診療科ではどういう勉強をしておけばいいですか?」とか、些細なことでも聞きやすいよね。優秀な先輩ばかりで、質問すると納得できる答えが返ってくるから心強いです。

手技を磨きながら成長が実感できる

中川…三村先生と濱田先生は、半年の研修期間でずいぶんしっかりしてきたよね。自分でも力がついてきたのが分かるんじゃないかな。

三村…私は最初に当直に入ったのが6月で、その時についてくれた上級医の先生と最近また一緒に担当する機会があったのですが、「すごく変わったね!」と。成長できたのかなと、とても嬉しかったですね。

濱田…僕は外科系から研修をスタートさせたのですが、手技が身についてきたのを感じます。どうしても研修医が「見ているだけ」になってしまう病院が少なくないなかで、ここでは自分で体験できるのでやりがいがあります。

中川…二人とも本当によくやってくれているね。その調子で頑張ってもらいたいな。

三村…とにかく手を動かして、体を動かして、しっかり勉強しながら研修をしたいという学生さんには、ぜひ当院をおすすめしたいです。

濱田…それに地域医療に携わる医師を目指す学生さんにもぴったりだと思います。

藤原…そうだね。初期研修の2年間は大切な期間だから、有意義に過ごしてもらいたいな。私たちはそのサポートをしていくつもりです。

独立行政法人労働者健康安全機構
中国労災病院
〒737-0193 広島県呉市広多賀谷1-5-1
TEL：0823-72-7171　FAX：0823-74-0371
E-mail：kenpro@chugokuh.johas.go.jp
Hospital Director：
栗栖　薫
■病　床　数：410床
■指　導　医：43名
■初期研修医：10名
https://www.chugokuh.johas.go.jp/

中川　五男 先生
Itsuo Nakagawa
副院長
救急部 部長

藤原　久也 先生
Hisaya Fujiwara
産婦人科 部長
初期研修管理委員会 委員長

三村　藍加 先生
Aika Mimura
産業医科大学卒
初期研修1年目

濱田　純 先生
Jun Hamada
富山大学卒
初期研修1年目

編集制作 【民間医局】株式会社メディカル・プリンシプル社　Art Director：勝又シゲカズ　Writer：安藤梢　Photographer：生猪俣淳（P1.P2.P5.P6）、山本幹（P3.P4）